

【高齢者の現状 18】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

3 高齢者が生きる

(2) 安定した生活②

生活を考えるといろいろな不安が感じられるのが普通の状態です。不安のない時代を求めて一生懸命戦後生き抜いてきたものが、現実にはいろいろな不安要素があり、個人により解決することが求められている世の中になってしまっています。寂しい思いもしますがこれも現実であり、避けて通れない世の中であり、毎日、毎日の生活のリズムも自分で作っていくしかない時代であり、個人の情報に頼るもので、社会がモデルを作りそれを参考にして生きていくようなシステムがなく、不安のなかにおいて将来を計画し、自分らしい生きかたを追求することが求められているし、ある意味において冷たい社会なのかもしれませんが、負けているわけには行かないのも現実です。

だれがこんな社会にしたのかを考えることも大切ですが、今日・明日の自分の生活をいかにするのが必要になっていきますので、自分なりに力強く生きることには工夫が必要です。その工夫をいかにするのが問題ですが、それを話せる人が存在するのも疑問に思ってしまうのも現実です。

健康であることは生活するための大切な条件の一つであり、自分の力で生活することができるかどうかを判断し、その条件を正確に捉えることが第一の条件です。介護受けることなく生きること、自己判断で生きること、死んでからも人に迷惑をかけないようにしているかを検証することも必要です。そのような事柄を考えることができ、実行する能力が存在すること必要ですが、それすらもつことの出来ない人も現実は存在します。

今日・明日に自分の力を感じられない人もいますが、そのことから考えてどうしていくかを検証し、一つ一つを考え実行可能なかを確認し、より具体的にし、心配なものを整理し、妥協点があるのかどうかを判断して行く作業も必然的なものです。この作業を手抜きすると安定した生活を求めることはできませんので注意してください。